

第十五章 子音轉置の例

二馬の「浮世床」に、ふうたきら（利いた風、岩波文庫本三十四頁）きらしもねく（しだらもな

五、二十三頁）郷在者（在郷者、四十九頁）等といふ言葉がある。これは所謂センボ（隠語）で、わざと引っくり返したもので、音韻論の範圍外である。その證據には、右の三例とも、當人に聞かれては都合の悪い様な侮辱的言辭に限られて居る。「縁起」の倒語のゲン（今ゲンと訛る）もこの例である。隠語には、この種の倒語が非常に多い。菊澤さんの國語位相論（國語科學講座、第二輯）に、次の様にある。

盜賊語の語彙中、最も顯著な特徴を示すものは、逆置の方法によるものであります。これは、その單語の音配置を逆置したものでありまして、その方法は極めて簡單でありますけれども、而もその結果は普通人には容易く察知し得ないものとなりますのであります。これは、所謂「せんぼ」として江戸時代に記録されたものにも見え、

口	ちく	年寄	よりと
顔	おか	大屋（家主）	やおほ
種	ねた	本屋	やほん
姫	めひ	英語	ごえい

などがそれであり、明治以後のものにも頗る多く現はれ、

錢	にぜ	判事	じはん
紐	ぼひ	石鹼	ぼんしや
筆	でふ	袋物	ろつぶく
安い	すやい	神祭	つりま
旅	びた	活動寫眞	どうかつ
硝子	すがら	拘留	りゆこう
洋傘	もりこう	神官	ねしかん

序ながら、この種類の方法是外國語に於ても見られ、例へば英語ではこれを *back slang* と呼び、その實例は、明治二十年に刊行された村松守義著「英和双解隱語彙集」にも既に見えてゐるのであります。

cool	（見る to look）
dab	（悪 bad）
deb	（寢床 bed）
deleg	（金 gold）

cink (小刀 knife)
 elrig (少女 girl)
 alop (巡査 police)
 erth (三 three)

これに就て面白く感ぜられるのは、英語に於ては、音素を單位とする全然の逆置であり、我が國語に於ては成音(音節)を單位とする全部又は部分的逆置である點であり、此處にも兩國民の音聲意識の相違が伺はれる様であります。(以上)

しかし、「音聲意識の相違」といふ點は再考の餘地がある。相違のあるのは、音聲意識よりも、むしろ、文字意識ではあるまいか。たとへば knife の *n* はサイレントで、發音はナイフである。それがエフィングとなるのは、音韻現象としては説明できない。これは單に文字の順序を機械的に倒置したものである。従つて、文字ある階級の仕業で、無識階級のまづからぬ所である。

x

x

x

私が是から説く所は純然たる音韻現象であつて、右に挙げた様な作爲した隠語とは違ふ。子音轉置とは、母音の位置は變らないで、子音だけが前後の位置を換へる事をいふ。その例は次の通りであ

る。

油	アルバ (aruba) 越中・加賀
穀	アナレ (anare) 佐渡・越後・越中・能登
うるち	ウスライ (usurai) 安房
大麥	オーグミ (ogumi) 紀伊日高郡
臆病者	オブキ・ーモン (obukiyomon) 伊豫氷見町
蕪菁	カルバ (karuba) 金澤市
きらず	キザル (kizaru) 佐渡
分限者	グベンシ + (gubenshi) 山陽道・四國・九州
小麥	コグミ (kogumi) 岩手・和歌山
小麥	コグミ (kogomi) 加賀河北郡
綾らか	シロバカ (shobaka) 出雲大原郡
煙草盆	タカボボン (takabobon) 下總香取郡
卵	タガモ (tagamo) 甲斐・越中・能登・加賀・若狹・伊豫

ちりげ

チギレ (tchire) 淡路

釣瓶

ツブレ (tubure) 上總・安房・佐渡・越中・能登・加賀・若狹・奈良・大阪・播磨・

淡路・岡山・讃岐・筑前

鵜

ウムギ (umugi) 越中・能登・加賀・美濃・京都市・大和・兵庫・昔の大阪

薙刀

ナリガタ (narigata) 加賀能美郡

葱

ネクバ (nekuba) 飛騨・越前

練堀

ネヒレ (nehire) 阿波南郡

苗代

ノルソ (noruso) 越中西礪波郡

妻腰

ヒヌレ (hinure) 安藝々々郡

南瓜

ホルバ (horuba) 加賀能美郡

眉毛

マギノ (magino) 福島・茨城・栃木

車前草

マグリバン (magurippan) 秋田仙北郡

土産

ミガヒ (migaye) 飛騨大野郡

夕顔

ユワモ (yuwango) 岩手・長野

蓬

ヨゴミ (yogomi) 津輕・岩手・秋田・美濃・若狹・京都市・三重・和歌山・播磨・

徳島・土佐

悪戯

ワスラ (wasura) 秋田・岩手・宮城・會津・茨城・栃木

草鞋

ワヅリ (wazuri) 美濃郡上郡

右の内、ナリガタはナニガタの説で、そのナニガタはナギナタ(薙刀)の子音轉置である。ワヅリはワルヂ(草鞋)の子音轉置、ノルソはノスロ(苗代の方言)のそれである。「絞らか」は「絞らうか」の意である。グベンシヤは工面者の訛であるとすれば、むしろ、分限者の方が子音轉置となる。アナレをアラレの訛と見るのは悪い。北陸道では、凡て、アラネとばかり言ふ。その子音轉置である。

タマゴをネタ(種)式に引ツくり返せばゴマタとなり、^{ゴマ}ゴマ(ナイフ)式に引ツくり返せばオガマント(ogatani)となる。何れにしても、タガモとはならない。タガモは子音の轉置である。隠語の倒置法とは全く別である。次にあげる例は、子音の轉置と見なくても、音節の轉置と見てもよい例である。

體

カダラ

佐渡・越後・静岡・美濃・尾張・越前・若狹・大和・三重・和歌

山・大阪・兵庫

竹馬 たけうま	カタシ	甲斐
窮屈 きうくつ	キウツク	栃木芳賀郡
小刀 こがた	コガナタ	甲斐
暫く しば	シラバク	越中
だまかされる	ダカマサレル	越中
茶釜 ちやぶ	チャマガ	山形・會津・常陸・埼玉・千葉・北陸全部・中部全部・和歌山・ 廣島・土佐・江戸
晦日 くわいじつ	ワモゴリ	各地
玉蜀黍 とうもろこし	トウミギ	福島・栃木
とさか	トカサ	信州・伊豆
同	トッカサ	會津
同	トカッサ	甲斐
戸棚 とナダ	トナダ	越中・尾張
同	トナダ	奈良・和歌山・大阪・兵庫・香川・福岡

俎 な	ナマイタ	加賀・和歌山・鳥取・出雲・安藝
齒釜 はな	ハマガ	美濃・播磨
火棚 ひナダ	ヒナダ	信州諏訪郡
茸籠 フキモゴリ	フキモゴリ	甲斐
目藥 メスクリ	メスクリ	肥後南の關町
蓬 モロギ	モロギ	甲斐東八代郡

左記のものは、ネタ（種）式の倒置である。

桑實 くわじつ	カズミ	甲斐
莖 キク	キク	廣島神石郡
同	ギク	越後古田町
拳固 ゴンケ	ゴンケ	福島縣
拳骨 ゴンケツ	ゴンケツ	岩手縣
さいかち	サカイヂ	青森縣
こすい	スコイ	各地

頼母子

タノシモ

甲斐

狐

チキネ

出雲頼川郡

鯉

ナイゴ

栃木河内郡

涙

ナダミ

福島中村町

脂

ニヤ

備中・安藝

明年

ネンミョウ

伊勢津市

粘土

パネツチ

三河寶飯郡

火吹竹

フヒキダケ

甲斐

工面

メンク

會津

パネツチは、もしハニツチ（埴土）の訛であるとすれば、この例には這入らない。福島縣中村町のナダミ（涙）は、子供が戯れて言ふ詞である。ゴンケ（拳固）ゴンケツ（拳骨）スコイ（校い）メンク（工面）ネンミョウ（明年）も、隠語が戯語として、わざと作り設けられたものかと思ふ。齒齧をハギクと言ふ人がある。周防柳井町のハネガリ（針金）は、一字置いて倒置した珍しい例である。ハネガレ、ハネガネ、ハレガネともいふ。